

# 架橋義歯補綴学

責任者名：小峰 太(歯科補綴学III 教授)

学期：前期

対象学年：4 年

授業形式等：講義

## ◆担当教員

小峰 太(歯科補綴学III 教授)

本田 順一(歯科補綴学III 助教)

窪地 慶(歯科補綴学III 助教)

高田 宏起(歯科補綴学III 助教)

## ◆一般目標 (GIO)

少数歯欠損の診断と、固定性補綴治療による機能回復と維持のために必要な知識と技能を身につける。

架橋義歯補綴学の基礎知識および歯科補綴学用語を理解する。

## ◆到達目標 (SBO s)

少数歯欠損に対する固定性補綴治療の臨床的意義と方法を理解し、説明できる。

クラウンブリッジによる治療について説明できる。

歯科補綴学の用語を理解し、説明できる。

## ◆評価方法

定期試験結果 (50%)、平常試験① (5月27日、土曜日) および平常試験② (7月22日、土曜日) の結果 (40%)、小テストおよび提出物 (10%) で評価する。

平常試験に関する内容は講義時間内にフィードバックを行う。公欠以外の欠席は減点する。

## ◆オフィス・アワー

担当教員	対応時間 ・ 場所など	メールアドレス・連絡先	備考
小峰 太	月曜日 17 時から 18 時 歯科補綴学第III講座研究室 講義終了後随時	komine.futoshi@nihon-u.ac.jp 歯科補綴学第III講座研究室	
本田 順一	月曜日 17 時から 18 時 歯科補綴学第III講座研究室 講義終了後随時	honda.junichi@nihon-u.ac.jp 歯科補綴学第III講座研究室	
窪地 慶	月曜日 17 時から 18 時 歯科補綴学第III講座研究室 講義終了後随時	kubochi.kei@nihon-u.ac.jp 歯科補綴学第III講座研究室	
高田 宏起	月曜日 17 時から 18 時 歯科補綴学第III講座研究室	takata.hiroki@nihon-u.ac.jp 歯科補綴学第III講座研究室	

	講義終了後隨時		
--	---------	--	--

### ◆授業の方法

指定教科書の内容を基本として制作されたスライド pdf を投影し、講義を行う。

受講者に対し、スライドの内容を記載した資料を配付する。

講義の受講に際しては、教科書冠橋義歯補綴学テキスト第4版とノート類を手許に準備すること。

学期内に平常試験を行う。平常試験については、受講者の理解の深めるため、講義時間に解説を加える。

【実務経験】小峰 太、本田順一、窪地 慶、高田宏起：日本大学歯学部付属歯科病院クラウン・ブリッジ科で歯科診療を担当している立場から、本教科で学修する知識や臨床術式が実際の臨床でどのように活かされるかについて説明を加える。

### ◆教 材（教科書、参考図書、プリント等）

種別	図書名	著者名	出版社名	発行年
教科書	冠橋義歯補綴学テキスト第4版	石神 元、松村英雄、小峰 太、他	永末書店	2021
プリント配付				

### ◆DP・CP

コンピテンス3：リサーチマインド

コンピテンシー：3-3, 3-4

対応するディプロマ・ポリシー：DP3

コンピテンス4：歯科医学および関連領域の知識

コンピテンシー：4-5, 4-6, 4-10

対応するディプロマ・ポリシー：DP4

コンピテンス5：医療の実践

コンピテンシー：5-2, 5-3, 5-4, 5-5, 5-8, 5-9, 5-10

対応するディプロマ・ポリシー：DP5

### ◆準備学習(予習・復習)

教科書による予習を行い、当日の学修到達目標を理解すること。

授業中は、ノート等に必要事項を記載し、自身の学修に必要なノートを作成すること。

作成したノートをもとに復習を行うこと。

各々授業時間相当を充てて予習と復習を行うこと。

### ◆準備学習時間

授業時間（50分）相当を予習（50分）および復習（50分）に充てる。

## ◆全学年を通しての関連教科

歯冠補綴学（3年後期）

歯冠補綴学実習（3年後期）

架橋義歯補綴学実習（4年前期）

固定性義歯補綴学（4年後期）

専門総合特別講義 III（インプラント）（4年後期）

顎機能分析演習（4年後期）

臨床実習（5年前期、後期）

口腔インプラント学（6年前期）

## ◆予定表

回	クラス	月日	時限	学習項目	学修到達目標	担当	コアカリキュラム
1		4.10	8	ブリッジ概説 (教) pp.93-98	・ブリッジの構成、種類、ブリッジの支台装置について説明できる。	小峰 太	D-5-3-1 固定性補綴装置(クラウンブリッジ)による治療
2		4.17	8	ポンティック (教) pp.98-100	・ポンティックの意義、種類、適応について説明できる。	小峰 太	D-5-3-1 固定性補綴装置(クラウンブリッジ)による治療
3		4.24	8	レジン前装冠概説 1 (教) pp.101-109	・レジン前装冠の支台歯、構造、特徴、適応について説明できる。	小峰 太	D-5-3-1 固定性補綴装置(クラウンブリッジ)による治療
4		5.1	8	レジン前装冠概説 2 (教) pp.101-109	・レジン前装冠の支台歯、構造、特徴、適応について説明できる。	小峰 太	D-5-3-1 固定性補綴装置(クラウンブリッジ)による治療
5		5.8	8	支台装置としての レジン前装冠 1 (教) pp.101-109	・ブリッジの支台装置としてのレジン前装冠について、設計と製作方法を理解し、説明できる。	小峰 太	D-5-3-1 固定性補綴装置(クラウンブリッジ)による治療
6		5.15	8	陶材焼付冠概説 1 (教) pp.111-122	・陶材焼付冠の構成、特徴、適応について説明できる。	小峰 太	D-5-3-1 固定性補綴装置(クラウンブリッジ)による治療

7		5.22	8	陶材焼付冠概説 2 (教) pp.111-122	・陶材焼付冠の構成、特徴、適応について説明できる。	小峰 太	D-5-3-1 固定性補綴装置(クラウンブリッジ)による治療
8		5.27	4	平常試験① 131 講義室と 132 講義室において、第1回から7回までの講義の内容を出題範囲として、筆記試験を実施する。 平常試験①フィードバック *土曜日(5月27日)	・平常試験①を行い、第1～7回目の講義内容の理解度を確認する。 ・平常試験①のフィードバックを行い、第1～7回目の講義内容の理解度を確認できる。	小峰 太 高田 宏起	D-5-3-1 固定性補綴装置(クラウンブリッジ)による治療
9		6.5	8	陶材焼付冠概説 3 (教) pp.111-122	・陶材焼付冠の構成、特徴、適応について説明できる。	小峰 太	D-5-3-1 固定性補綴装置(クラウンブリッジ)による治療
10		6.12	8	支台装置としての陶材焼付冠 1 (教) pp.111-122	・支台装置としての陶材焼付冠について製作方法を理解し、説明できる。	小峰 太	D-5-3-1 固定性補綴装置(クラウンブリッジ)による治療
11		6.19	8	支台装置としての陶材焼付冠 2 (教) pp.111-122	・支台装置としての陶材焼付冠について製作方法を理解し、説明できる。	小峰 太	D-5-3-1 固定性補綴装置(クラウンブリッジ)による治療
12		6.26	8	支台装置としての部分被覆冠 (教) pp.123-128	・部分被覆冠の種類、適応、支台装置への応用について理解し、説明できる。	小峰 太 本田 順一	D-5-3-1 固定性補綴装置(クラウンブリッジ)による治療
13		7.3	8	ブリッジの印象採得 (教) pp.129-133	・固定性補綴のための印象採得について、クラウンとの相違を説明できる。	小峰 太 窪地 慶	D-5-3-1 固定性補綴装置(クラウンブリッジ)による治療

							ジ)による治療
14	7.10	8	ブリッジの頸間関係の記録（咬合採得） (教) pp.133-139	・固定性補綴のための頸間関係の記録について、材料、術式を理解し、説明できる。 ・固定性補綴のための暫間補綴について説明できる。	小峰 太	D-5-3-1 固定性補綴装置(クラウンブリッジ)による治療	
15	7.22	4	平常試験② 121 講義室と 122 講義室において、第1回から14回までの講義の内容を出題範囲として、筆記試験を実施する。 平常試験②フィードバック ※土曜日(7月22日)	・平常試験②を行い、第1～14回目の講義内容の理解度を確認する。 ・平常試験②のフィードバックを行い、第1～14回目の講義内容の理解度を確認できる。	小峰 太 高田 宏起	D-5-3-1 固定性補綴装置(クラウンブリッジ)による治療	

